

海洋理工学会 平成9年度 春季大会

[期日]平成9年4月18日(金), 19日(土)

[会場]東京水産大学

[主催]海洋理工学会

[協賛]日本海洋学会/日本水産学会/日本気象学会/日本造船学会

日本機械学会/応用物理学会/海洋調査技術学会/電子情報通信学会

映像情報メディア学会/計測自動制御学会/電気学会

4月18日(金) 9:30~17:00 公開講座・シンポジウム

第1部 石油流出事故とその対策 (A会場)

コンビーナ:杉森康宏((財)石油開発環境安全センター(SEC)環境部会、東海大海洋)

中田喜三郎(資源環境技術総合研究所)

1. あいさつ -石油流出事故の歴史とその対応- 杉森康宏(同上)
2. 石油タンカー事故と船体構造の問題点 前田久明(東大生研)
3. 石油流出事故の監視システムの現状 千賀康弘(SEC環境部会、東海大海洋)
4. 日本海重油流出事故に対する予測-数値モデルと海洋データベースの応用-
中田喜三郎(資環研)
5. 石油流出事故の油回収機器の開発と現状 鈴木敏夫(阪大船舶海洋)
6. 欧米の海洋流出油の事故に対する体制について
森田一郎(SEC)中根徹(日本海洋生物研究所)

第2部 流出油汚染による環境への影響と回復策 (B会場)

7. 石油流出事故と環境問題-湾岸戦争を例として- 佐藤博雄(東水大)
8. 流出油の魚への影響 山田 久(中央水研)
9. 流出油の化学組成と環境への影響 森田昌敏(国立環境研)
10. 海洋流出油の微生物による分解浄化 村上昭彦(東農工大)
11. クエートにおける油汚染度のバイオ・レメデエイション 辻 博和(大林組技研)

パネルディスカッション

司会 堀田宏(海洋科学技術センター)

4月19日(土) 9:30~16:00 一般講演

A会場

衛星データ解析・データベース

[座長:飯高 弘(電総研)]

A1. ホワイトキャップの海面被覆率と風速、その他の物理的要因との相互関係

○菅野 進(芙蓉海洋開発) 古島靖夫(海洋科学技術セ) 千賀康弘、杉森康宏(東海大海洋)

A2. 水中下向き照度の風速依存性

○川崎 清(中央水研)

A3. ADEOS/NSCAT による海上風の観測

○江淵直人(東北大理)

A4. 人工衛星による太平洋全域の大気・海洋間炭酸ガス交換係数の年変動マッピング

○橋場俊樹、杉森康宏、秋山正寿、杉山弘尚(東海大海洋)

A5. 海洋観測データの管理提供システムの開発

○直井純、大塚清、柏野裕二(海洋科学技術セ)

生物計測1

[座長:川崎 清(中央水研)]

A6. 音響による懸濁粒子分布量の測定 of 海域実験による検討

○文 鐘旭、竹内俱佳(電通大) 飯高弘、斉藤俊幸、佐藤宗純(電総研)

A7. Laser Instruments for Particle Size and Settling Velocity Measurements in the Coastal Zone

○Y.C.Agrawal (Sequoia Sci., Inc., USA)

A8. ブイ搭載型小型海中レーザレーダによる植物プランクトン計測

○斉藤俊幸、飯高 弘、佐藤宗純(電総研) 日下祐三(三井造船昭研)

A9. 植物プランクトン濾過フィルタの拡散反射測定 of 精度 of 検討

○千賀康弘、大垣洋介、池田貴彦(東海大海洋)

生物計測2

[座長:田中祐志(近大農)]

A10. 瀬戸内海に出現する二枚貝幼生の識別法 of 検討

○寺崎誠(東大海洋研) 浜口昌己、薄浩則、石岡宏子(南西水研)

A11. 海洋生物同定のためのリアルタイム画像処理手法 of 開発2

○秋葉龍郎、足立善昭、中村真理、角井嘉美(電総研大阪ライフエレクトロニクス研究センター)

A12. 曳航式観測器システムの開発(その1)

○小澤知史、宗輝、岡田喜裕(東海大海洋)

B会場

物理・生態系モデル

[座長:中田喜三郎(資環研)]

B1. オイラー・ラグランジュ法を用いた赤潮数値モデルの開発

○田中昌宏(鹿島技術研究所) Robert Vos (Delft Hydraulics)

B2. 人工衛星 NOAA による東京湾の表面水温分布の季節変動—多層位流態モデルの解析結果との比較—

○浦野庸子、中根徹(日本海洋生物研究所) 安倍誠、杉森康宏(東海大海洋)
藤田真(漁業情報サービスセ)

B3. 黒潮・親潮システムモデル

○三寺史夫、吉川泰司(海洋科学技術セ) 田口文明(三菱総研)、中村啓彦(鹿大水産)

B4. 貧酸素に対する底生生物のレスポンスを考慮した底生生態系モデル

○畑 恭子(新日気) 鈴木 輝明、青山裕晃、甲斐正信(愛知水試)

B5. 底生生態系モデルを用いた能取湖のアマモ場における物質循環の解析

○畑 恭子(新日気) 中田喜三郎(資環研)

物理計測システム

[座長:荒井修亮(京大農)]

B6. 田辺湾における水温の突発的変動についてテレメトリシステムによる連続計測の結果から

○田中祐志(近大農) 長井大(新日本気象海洋) 津田良平(近大農)

B7. 海底熱水採取における形状記憶合金の利用—SMAP の開発—

許 正憲(海洋科学技術セ) ○長沼 毅(広島大) 植木 達彦(古河電工)

B8. 海流による熱輸送量の音響的計測法の検討

○竹内俱佳(電通大) 岸田知之(電通大院) 平啓介(東大海洋研)
永井豊(電通大) 北川庄司(東大海洋研)

B9. 音響通信を用いた臨時観測システムの設計検討

○飯高 弘、佐藤宗純、斉藤俊幸(電総研) 湯浅 肇、酒井豊彦(三井造船昭研)

ブイシステム

[座長:長沼 毅(広島大)]

B10. 海洋観測のための定点復帰型ブイの試作

石川憲、○山越康行(水工研) 松尾豊(東北水研) 有村忠浩、廣田修一(ゼニライトブイ)

B11. メッセンジャーフロートを用いた深層係留ブイの開発

○石川孝一(気象庁)

B12. 流星バースト通信による漂流ブイデータの伝送実験(2)

○道田 豊、岡克二郎、吉宣好、寄高博行(海上保安庁水路部) 小林 浩(ハイテクサーチ)

B13. 海洋気象ブイロボットに搭載可能な二酸化炭素観測装置の開発

○高谷祐吉、根本和弘(気象庁) 紀本英志(紀本電子工業)